

# 新技術情報データベース “NETIS プラス”

～国土交通省 NETIS に3つのプラス～

森下博之

先端建設技術センターでは、公共事業等での新技術活用を一層促進するため、国土交通省が運営するデータベース「新技術情報提供システム (NETIS)」に掲載されている情報に、さらなる付加価値を持たせた新技術情報データベース「NETIS プラス」の本格運営を本年1月より開始し、技術開発者、設計者、施工者および発注者への情報発信に努めている。本報では、有用な新技術の活用と技術開発のスパイラルアップの実現に向けた当センターの取り組みである新技術情報データベース「NETIS プラス」について、そのねらいや特徴などについて紹介する。

キーワード：NETIS, NETIS プラス, 技術開発, スパイラルアップ, 新技術

## 1. はじめに

国土交通省では、「公共工事等における新技術活用システム」を平成18年度から本格運用している。これは、国土交通省が運営している「新技術情報提供システム (NETIS)」という新技術データベースを中核として、新技術情報の収集・共有、積極的な現場導入、導入現場での活用効果の調査、調査結果に基づく事後評価という一連の流れを制度化し、有用な新技術の活用と技術開発のスパイラルアップを図る総合的な取り組みである。さらに、評価結果が優れている新技術については、総合評価落札方式や工事成績評定において加点対象とするなどのインセンティブも付与されている (図-1)。

先端建設技術センターでは、国土交通省の NETIS に登録・公開されている新技術情報に、さらなる付加価値を持たせた新技術情報データベース「NETIS プラス」を本年1月より運営し、建設に携わる方々 (技術開発者、設計者、施工者および発注者) への情報発信に努めている (「NETIS プラス」のサイト <http://www.netisplus.net/>)。

## 2. 「NETIS プラス」のねらい

「公共工事等における新技術活用システム」という制度がうまく機能し、その意義を果たすためには、①現場の設計者や施工者が現場への導入を判断するために必要十分なきめ細かい情報を提供すること、さらに、②現場に導入した結果を踏まえて開発者がさらに研究・改良を重ね技術開発のスパイラルアップにつなげるために必要な情報を提供することが重要だと考えている。

現在 (平成25年5月時点)、約4,500件の新技術が登録されている国土交通省の NETIS には多種多様な技術が混在する中で、それらの登録、現場導入、活用効果の調査、事後評価に多大の労力がかけられている。NETIS への登録や事後評価は国土交通省が実施すべきものだと思うが、技術情報をより使いやすくするためのこまやかな情報の提供は民間でも実施可能であり、結果として官と民が役割分担をすることでより効果的・効率的なシステムにしていくことが考えられる。

そこで、先端建設技術センターでは、優れた技術を

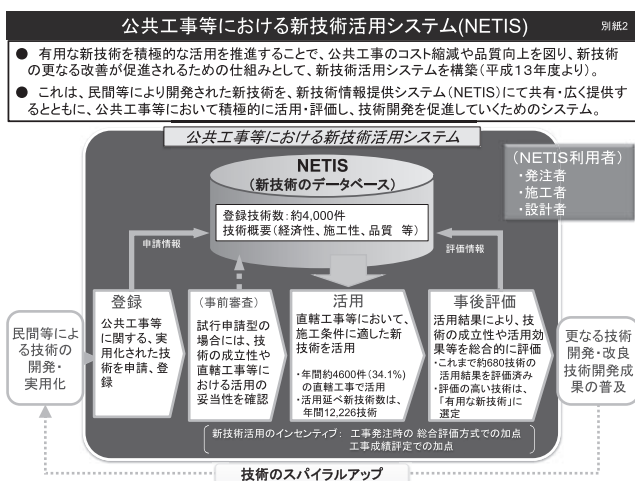


図-1 公共工事等における新技術活用システム (国交省 HP より)



図-2 先端建設技術センター「NETIS プラス」トップページ

見極めるために必要なこまやかな“機能”，“情報”，“サービス”を提供する新技術情報データベース「NETIS プラス」の構築に取り組み，本年1月より本格的に運用を開始した（図-2）。

### 3. 「NETIS プラス」の特徴

新技術情報データベース「NETIS プラス」は先端建設技術センターの自主事業であり，公共事業における新技術活用を促進するため，国土交通省のNETIS

<b>機能</b> をプラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知りたい技術情報に素早くアクセス</li> <li>・類似技術の比較検討も可能※</li> </ul>
<b>情報</b> をプラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や写真、カタログ等も配信</li> <li>・国交省NETIS登録技術以外も掲載</li> </ul>
<b>サポート</b> をプラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発者と活用者のコミュニケーション</li> <li>・国交省NETISへの登録もサポート</li> </ul>

※は準備中

図-3 NETIS プラスの特徴“3つのプラス”

に登録・公表されている情報に，以下の“3つのプラス（＝付加価値）”を持たせたデータベースである（図-3）。

#### (1) “機能”をプラス

データベースの検索方法や検索結果の表示方法に工夫を凝らし，知りたい新技術情報に素早くアクセスすることが可能である（図-4）。さらに，いくつかの類似技術まで絞り込んだ後に，それらの比較表を簡単に作成・印刷できる機能等も今後追加する予定である。

また，クラウドを用いることで，高いセキュリティーを確保しつつ，いつでもどこでもデータベースにアクセスいただける環境を提供している。

なお，データベースの検索・閲覧は無料をご利用いただける。

#### (2) “情報”をプラス

動画や写真アルバム，カタログ資料などのマルチメディアに対応し，新技術の活用の検討のために必要な情報を一元的・効率的に収集することが可能である。開発者サイドとしても，より積極的・効果的に自社の新技術をPRいただける（図-5）。

また，国土交通省のNETISに登録・公開されている技術情報については正確に引用しているほか，民間建設工事向けの新技術など，国土交通省のNETISには掲載されていない優れた新技術についても当センターの審査を経て掲載する。

#### (3) “サポート”をプラス

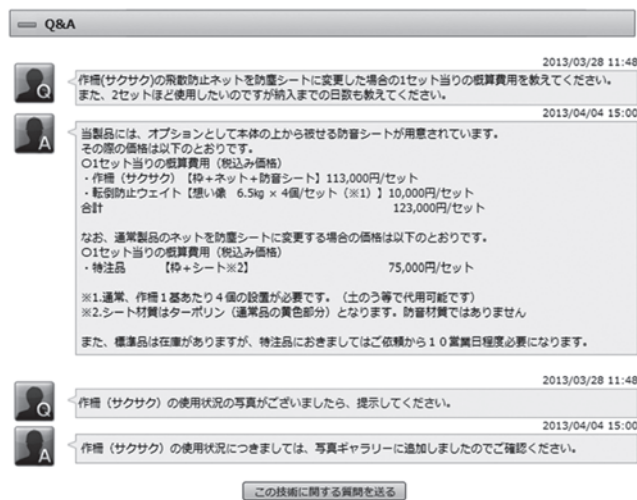
検索している方から開発者への質問・回答など双方向のコミュニケーションが可能である。開発者側とし



図-4 “機能をプラス”～検索結果の表示例～



図一五 “情報をプラス”～動画や写真，カタログ等の掲載例～



図一六 “サポートをプラス”～Q & Aの掲載例～

でも現場の生の声を聞くことにより技術のスパイラルアップにつなげていただける（図一六）。

また、国土交通省のNETISに未登録の技術については、NETIS プラスへの登録と併せて、NETIS 登録に向けた支援（コンサルティング）も実施している。

先端建設技術センターでは、技術開発者、設計者、施工者および発注者が、新技術情報をより使いやすくなるように、この新技術情報データベース「NETIS プラス」を今後も継続的に改良していく予定である。

#### 4. おわりに

技術開発と活用の間にはいわゆる「死の谷」が存在するとよく言われる。特に建設分野においては、技術開発のシーズは民間にあり、基本的に民間で行われるが、その活用は公共工事が主体である。積極的に新技術を使っていこうという強い意思がなければその谷はなかなか埋まらず、場合によっては民間の技術開発意欲を低下させる要因にもなる。公共事業の発注者である国や地方自治体等が抱える課題やニーズを踏まえた上で、技術開発の成果を公共工事の現場に導入することが肝要だが、これは民間だけでは困難である。先端建設技術の開発と現場への導入・普及にあたっては官の役割がとて重要である。

先端建設技術センターでは、官と民が役割分担をすることにより、「公共工事等における新技術活用システム」がより効果的・効率的なシステムとなるよう尽力する。今後も継続的に「NETIS プラス」の改良を重ね、意欲ある優れた新技術を応援し、建設業界全体の発展に寄与するデータベースとなることを目指して参りたい。

JICMA

【筆者紹介】  
 森下 博之（もりした ひろゆき）  
 （一財）先端建設技術センター  
 技術調査部長

